



令和7年度
第7回海外研修
報告書

Overseas Training Report
富山県立魚津高等学校



アメリカ合衆国 サンフランシスコ
12月5日～13日（9日間）

魚津高校 第7回海外研修実施要項

1 実施期日 令和7年12月5日(金)～12月13日(土) 9日間

2 研修先 アメリカ合衆国 サンフランシスコ

3 校内事前研修

担当	対象	日程	時間	場所	内容
JTB	生徒・保護者	8月28日(木)	18:00～19:30	記念館90	オリエンテーション① 渡航準備・手続き等
校内①	生徒	9月25日(木)	15:40～16:40	4階選択A	プレイメントテスト(総務)
校内②	生徒	9月29日(月)	15:40～16:40	4階選択A	英会話等①(英語科)
校内③	生徒	10月3日(金)	16:40～17:30	4階選択A	英会話等②(英語科)
JTB	生徒	10月16日(木)	15:40～16:40	4階選択A	異文化理解等
校内④	生徒	10月20日(月)	15:40～16:40	4階選択A	アメリカ事情・訪問先調べ (地歴公民科・総務部)
校内⑤	生徒	10月27日(月)	15:40～16:40	4階選択A	探究活動①(探究CN)
校内⑥	生徒	11月6日(木)	15:40～16:40	4階選択A	探究活動②(探究CN)
JTB	生徒・保護者	11月12日(水)	18:00～19:30	記念館90	オリエンテーション② 紅奨学基金贈呈式 渡航最終説明会・結団式
校内⑦	生徒	11月17日(月)	15:40～16:40	4階選択A	探究活動③(探究CN)
校内⑧	生徒	11月20日(木)	15:40～16:40	4階選択A	英会話等③(1学年・英語科)
校内⑨	生徒	12月2日(火)	考査終了後・放課後	4階選択A	リハーサル・最終確認 (1学年・総務部)

4 研修日程

日次	月日(曜)	地名	現地時間	交通機関	スケジュール【宿泊地】	食事
1	12/5 (金)	黒部宇奈月温泉駅集合 黒部宇奈月温泉駅発 東京駅着 東京駅発 成田空港駅着 成田空港発 ----- サンフランシスコ空港着 サンフランシスコ空港発	09:20 09:53 12:20 13:03 13:57 17:00 ----- 09:15 12:00 PM	はくたか 558 成田 EXP27 NH008 ----- 専用車	黒部宇奈月温泉駅集合 北陸新幹線はくたか 558 号にて東京駅へ 東京駅から成田 EXP27 号にて成田空港第 1 ターミナルへ 到着後、出国手続き NH008 便にて空路サンフランシスコへ ----- (日付変更線) ----- 入国手続き、荷物受け取り、税関審査 空港内にてオリエンテーション ■INTEL 博物館見学 ■Global Communication クリニック *スピーカー：晴海 S Rodrigues 氏 プロフェッショナルの日米ビジネスコーディネーター が、プレゼンテーション上達に向けた表現方法を効果的に 指導します。 ■キックオフミーティング 生徒一人一人による研修への決意表明を行います。 【サンフランシスコ：Monroe Residence Club】	昼：- 夕：機内 ----- 朝：機内 昼：- 夕：○
2	12/6 (土)	サンフランシスコ	AM PM	専用車	■アップル本社ビジターセンター見学 ■Google 本社見学 ■コンピュータ歴史博物館見学 ■IT の未来についての講演・ディスカッション *スピーカー：CHM 解説員 山崎敦史氏 コンピュータの歴史を専門家から学びます。 ■ツインピークス観光 【サンフランシスコ：Monroe Residence Club】	朝：○ 昼：- 夕：○
3	12/7 (日)	サンフランシスコ	AM PM	専用車	■スタンフォード大学でデザイン思考 d.school 見学 ■スタンフォード大学 キャンパスツアー ■スタンフォード大学の学生またはポスドク研究員と 一緒にご昼食 ■スタンフォード大学特別講義 *スピーカー：丸山泰史氏 グローバルリーダーシップや研究内容について ■スタンフォード大学ブックストアにて自由時間 ■NASA Gift Shop にて自由時間 【サンフランシスコ：Monroe Residence Club】	朝：○ 昼：- 夕：○
4	12/8 (月)	サンフランシスコ	AM PM	公共交通機関	■TALK での英語研修（オープングラス） ※昼食は TALK が提供いたします。 ■TALK 留学生との Values Card Workshop & 意見交換会 【サンフランシスコ：Monroe Residence Club】	朝：○ 昼：○ 夕：○

研修日誌（出発～到着）

僕たちは海外研修の準備として、9回の事前研修を行いました。海外研修での現地の留学生との交流ゲーム内容の確認をしたり、日本の生徒との価値観の違いはどうなっているのかについて予想したりしました。準備をたくさんしたにもかかわらず、現地の留学生との交流はあまりうまくいきませんでした。英語でのコミュニケーションの難しさを実感しました。

2025年12月5日に僕たちは黒部宇奈月温泉を出発しました。また、出発式では代表であいさつをしました。とても緊張しましたが良い経験になりました。その後、新幹線では真面目に課題をしていました。



成田国際空港に着いて荷物検査や出国検査をしました。初めての経験だったので、とても緊張しました。初めての免税店や初めての飛行機など、「初めて」が多かった日になりました。10時間のフライトをしました。アメリカにつく頃には頭痛を感じました。アメリカに着くと待っていたのは入国審査でした。英語で話す必要があったり、もし意思疎通がうまくいかなかったら連れていかれると言われていたりもしたので不安でしたが無事、通過することができました！その後、引率の先生と自己紹介をしあったり、写真を撮ったりしてアメリカでの1日目が始まりました！！！！



研修日誌（出発～到着）

僕たちは12月5日の朝に黒部宇奈月温泉駅に集合し、研修へ出発しました。富山は雨が降っていて、とても寒かったです。最初は新幹線に乗って東京駅まで移動しました。新幹線の中は暖かく快適で、二時間ほどの移動だったので、寝ていたり遊んでいたりと様々な様子が見られました。お昼頃に東京駅に到着し、そこで各自昼食の弁当を買いました。そのあとは電車に1時間ほど乗車し、空港へ向かいました。電車内では各自購入した弁当を食べました。空港では専用の機械でチェックインをし、キャリーケースを預け、出国審査を受けました。出国審査を気合いで終えた後は免税店があるエリアに移動し、搭乗開始時間までそこで自由時間がありました。そのエリアは人の量が多く、水を一本購入するのにも苦労しました。

飛行機に搭乗した後は着陸まで10時間ほどかかりました。その間に飲み物や食事の提供が数回ありました。機内食や軽食はとてもおいしかったです。また、飛行機内は乾燥しており、騒音がひどかったです。しかし、窓からの景色は最高にきれいでした。飛行機から降りた後は英語がほぼ聞き取れなかった入国審査を気合いで通過し、荷物を受け取ってホールへ出ました。そこで現地の日本人ガイドの方と無事合流し、1日目の活動へバスに乗って移動しました。



研修日誌（現地 1 日目）

一日目は、皆さん慣れない飛行機での移動で、とても疲れているようでした。実際に、僕自身も飛行機でほぼ眠れずギリギリの状態でした。

僕たちは、スタンフォード大学に行きました。広大、とにかく広い。予想以上の広さに驚きました。良く晴れていて、清々しく、気持ちいい天気でした。

スタンフォード大学の聖堂に行く途中素晴らしいものを見ることができました。ロダンのマスターピース、「地獄の門」です。

実は、僕は、ロダンのファンで、「地獄の門」を生で見ることができて感動しました。おかげで眠気も吹っ飛びました。道中でチラッと見たくらいなので、もっとじっくり見たかったです。

聖堂につきました。圧巻でした。荘厳ということばがこれほどまでに似合う建物を僕は知りません。中も素晴らしい。ステンドグラスもパイプオルガンも最高でした。

新しくも伝統を感じさせる素晴らしいキャンパスでした。昼ご飯は、各自、スタンフォード大学のカフェテリアでサブウェイやスターバックスを堪能しました。最高。

僕は、一日目のスタンフォード大学について書きました。初めてのスタンフォード大学は衝撃的でしたね。おそらく他の人たちもスタンフォード大学について書く人が多いでしょう。本当に、そのくらい衝撃が大きかったです。



研修日誌（現地 1 日目）

海外研修 1 日目は空港を出た後、スタンフォード大学に行き、生徒一人ひとりが研修に対する決意表明を行いました。すべての生徒が研修に対し強い意志を持っていることが分かりました。そのあとはスタンフォード大学の教会へ行ったり、ご飯を食べたりしました。

午後からは INTEL 博物館に行き、INTEL の歴史について深く知ることができました。ガイドさんの話は全て英語で知らない単語もたくさんあり途中で何の話をしているのか分からなかったです。



その後、バスで移動し、ホテルで晴海さんの講演を聞きました。晴海さんの講演では海外の方との対話を想定し、文化の違いを知り、外国の方と話す時は相手の人に迷惑をかけないように考えて話すことが大事だと教えていただきました。

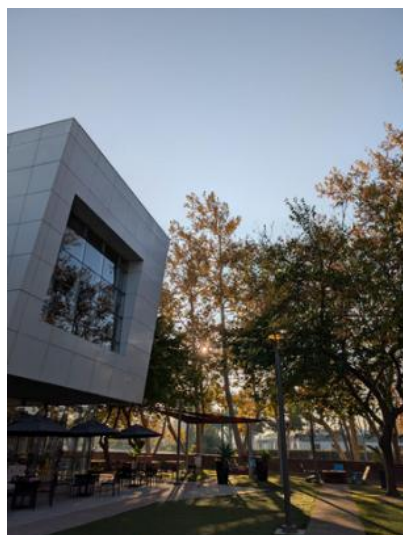


研修日誌（現地2日目）

本日は、まず Apple 本社のビジターセンターを訪れました。Apple はご存じの通りスティーブ・ジョブズが設立した世界的な企業で、カリフォルニア州のクパチーノに拠点を置いています。本社は「宇宙船」とも呼ばれる巨大なリング状の建物で、その敷地は東京ドーム約 15 個分、メインの建物だけでも約 6 個分の大きさがあるという驚くべきスケールです。ですが、今回はセキュリティの関係もあり会社の中には入りません。その代わりにビジターセンターへ向かうと、そこには Apple 本社の広大な敷地を再現した精巧な模型があり、貸し出される iPad をかざすことで、AR の技術を用いて建物内部を見ることができます。最新技術を駆使した展示に、一同釘付けになりました。その道中で Chipotle という店に寄りメキシコ料理を食べました。自分でカスタムして注文するのですが、トッピング一つ一つについての説明がなくとりあえず盛り付けてもらった結果「ステーキ」と「ヨーグルト」という脳一つでは想像できない組み合わせになった人が数人いてしまいました。「これは何？」と聞けばよかった、と後悔したと思います。

その後はバスで移動し、サンフランシスコの中心部にあるコンピュータ歴史ミュージアムを訪れ、コンピュータの起源から現代に至る進化の過程を深く体験しました。今回の解説は専門家である山崎さんに担当していただき、広い館内を移動しながらトランシーバーを通じてコンピュータの歴史を詳しく紹介していただきました。単なる歴史の解説にとどまらず、手元のスマートフォンの進化からこれからの未来がどう変わっていくのかを生徒たち自身で考える時間もあり、きっと誰もが未来への想像に心を躍らせたはずです。展示の中には、かつて某任天堂ゲームの周辺機器として有名になったロボットが誇らしげに置かれていたり、映画でおなじみのスターウォーズの R2-D2 が実際にフロアを歩いていたりと、驚きの連続でした。今まで画面の中の 2D でしか見たことのなかったレジェンドたちが目の前に現れ、異国の地で思いがけず身近なものとの出会えたことに、みんな大いに盛り上がっていました。

最後に山崎さんは、「自分と違う分野が得意な友達を持つことが大切だ」という非常に重要なメッセージを贈ってくださいました。自分一人では限界があっても、異なる強みを持つ仲間と手を取り合うことで、一つの物事に対して全く違う視点で捉え、新しい世界を切り拓くことができるようになるのだと、深く感銘を受けました。



研修日誌（現地2日目）

研修2日目には Apple や Google といった世界で活躍する企業に見学しに行きました。どちらの企業も施設内が大きく、自然や建物すべてがきれいになっていました。どちらの企業の方も、あまり英語が上手でない自分たちにフレンドリーに接してくれて人柄がいいなと感じました。社員同士の関係が良く雰囲気が良いからこそこれらの企業は成功しているのではないかと考えました。Google では建物の外に不思議なオブジェクトが何個も建てられており、世界を代表する企業の規模間というのを肌で感じることができました。Google ストアで少し自由時間がありました。中はとても綺麗でかつ広々としていました。特に隣のスペースにスマートフォンがたくさん並べてあり、たたんでいる状態から広げられるものには驚きました。写真では見たことあるものでも実物を見たり触ったりすることで新たな発見が生まれることが気がきました。

午後にはコンピュータ歴史博物館に行きました。そこでは、山崎さんという専門家の方に案内をしていただきました。館内では犬のロボットが飛んだりお手をしていたり、スターウォーズのロボットがいたり、技術の発展を感じることができました。今ではスマートフォンにでも入っているような電卓が、できた当初は信じられないほど大きく、今自分たちが便利な生活ができているのは今まで頑張ってきた人たちのおかげなのだと深く実感できました。また、ほんの数十年でこれだけの発展をしてきたので今後どうなるかの期待も膨らみました。またその時に山崎さんに IT の未来についての講演とディスカッションをしていただきました。今抱える問題について、AI を使ったらどのように解決できるかという内容でディスカッションをしました。いざ考えてみるととても難しく、問題解決の難しさを分かったとともに、うまく AI を活用すれば難しい問題でも解決できると思いました。この先の未来、技術は発展し続けるので、どのように AI と共生していくのが大事になる時代が来るのではないかと肌で感じることができました。



研修日誌（現地3日目）

私たちは、海外研修三日目の午前中にスタンフォード大学でスタンフォード大学の生徒と見学をしました。三つの班に分かれて、それぞれの学部に行きました。私は、佐藤さんという日本出身の生徒に大学を案内してもらいました。佐藤さんは、心理学部に所属していたので、その学部の研究室に特別に入らせてもらいました。教室は、日本の学校と異なり、とても広く、見たこともないコンピュータがたくさんありました。また、佐藤さんには、日本とアメリカの大学の入試の違いも教えてもらいました。日本の入試は、ペーパーテストの配点が一番大きいのに対して、アメリカは、ペーパーテストと実績も必要だとわかりました。自分も将来留学を考えているので、今のうちにできるだけの実績を作っておきたいです。

昼食は、スタンフォード大学内のお店で班員と一緒に食べました。そこには、**Subway** など日本でも見たことがあるお店や現地で初めて見るお店がありました。私たちの班の人たちは、中華料理系の焼きそばやタコス注文していました。私は、四分の一サイズのピザを注文したのですが、初めて店員とスムーズに英語でコミュニケーションをとることができ、とても嬉しかったです。ピザは、日本では、見たことがない大きさで、たくさんの具がつまっており、とても食べ応えがありました。



研修日誌（現地 3 日目）

私たちは、昼食の後、スタンフォード大学のブックストアで25分ほど自由時間を過ごしました。私はお土産用のキーホルダーや、自分用にTシャツを買いました。しかし予想以上に値段が高く、アメリカの物価の高さを実感しました。

その後、バスで少し行ったところのホテルで、スタンフォード大学研究員の丸山泰史さんの講演を聞きました。主な内容として、「グロスマインドセット」や「ビジョンの実現方法」などがありました。「グロスマインドセット」とは、学び続けたり、苦境にめげずチャレンジを愛したりすることで、より高い成果や成長を得られるようになる技術らしく、自分もこれを使ってレベルアップにつなげていきたいと思いました。「ビジョンの実現方法」に関しては、ペア活動を通して学びました。私が特に大事だと思ったことは、他の人と「何が上手くいってないのか」や「どんな選択肢があるのか」、「最初にどんな一歩を踏み出すのか」などを語り合い、具体的で小さな一歩を定めるということです。また、印象に残っていることとして、完璧より「一歩」に集中し、日常生活で小さく実践してみるとビジョンが見えてくるということです。「失敗」を恐れて、より完璧にしたいくなる自分とは逆の話だったので衝撃を受けました。その後、何人かは個別に質問をしに行っていました。私も個別で「学校で友達を増やすにはどうすればいいか」という質問をしました。その時に話されたのは、「人は誰かに話しを聞いてもらいたいから、積極的に聞き手になる」ということでした。確かに自分も話すことが大好きなので、積極的に聞き手になるということはとても効果的であると思いました。とても楽しく、充実した時間を過ごすことができました。



研修日誌（現地4日目）

4日目の午後には、フィッシャーマンズワーフの観光をした。そこへはTalkから歩いていった。サンフランシスコでは電動キックボードやスケートボードに乗っている人が多く、その光景によく驚かされた。日本では東京などで少しずつ普及されつつあり、富山県でこのように使われるのはいつになるのかなどと考えた。海辺の景色はUSJのサンフランシスコエリアで見た景色とそっくりで、本当にこんな感じなのだなどと驚いた。

カモメが群れを成しているのをながめつつ道を歩き、昔のコインゲームがたくさん置いてある店に入った。ゲームはしなかったが、外国の映画に出てきそうなものばかりで見ていて面白かった。後日、そこに遊びに行った人もいたらしい。店を出てまた歩いたところに、体重をかけるとくるくる回る駒のようなイスがいくつか置いてあり、そこで少し遊んだ。同じく遊んでいた外国人男性がいて、その方はとてもノリが良い人で、高校生がそのイスで転がると大口を開けて笑っていた。サンフランシスコの人はすれ違った人とあいさつをすることも多く、初対面の人にも温かいので、日本との文化の違いを感じた。

田舎では、スーパーのレジで並んでいるときや何かの順番待ちの時間に横の人と話したり、散歩中の人とあいさつをしたりすることがままある。しかし、田舎の人々が地域という狭いコミュニティの中で生活しており、お互いに近くに住んでいることが分かっているからだと思う。広大な土地を持ち、観光客や移り住む人も多いサンフランシスコでこのように交友的な文化が築けているというのは、純粹にうらやましいと感じた。

フィッシャーマンズワーフには、まるで映画やアニメの世界から飛び出したかのような、とてもかわいらしい外観のお土産屋や食べ物屋、服屋などがあり、とても気分が高揚した。案内をしてくれたTalkの先生おすすめのドーナツ屋さんでドーナツを味わった。もちもちでおいしかった。また、そこから見える海の景色もとてもきれいだった。海を挟んだ向こう岸に建物が建つ島があり、絵になるなと思って見ていたら、アルカトラズ刑務所という世界一脱獄が難しいといわれた刑務所だった。かつては使われていたが、現在はもう使われておらず、中まで見学できる観光名所となっているようだ。きれいだが、一般の人々からも日常的に見える場所に刑務所があるのは変わっているなと思ったのと同時に、普通の生活を送る人々のそばで見せしめのように刑務所があるため、不気味さも感じた。また、フィッシャーマンズワーフにはアシカがたくさん来ており、沿海に設置された台の上に集まって鳴いていた。野生のアシカは見たことが無かったので新鮮だった。

いくつかの商店に入って注文をするとき、英語で注文し、時には質問もした。間違えたり、うまく伝わらなかったりすることもあったが、最終的にはちゃんと買うことができたので良かった。異なる言語と文化を持つ人々と意思疎通することは難しいが、英語とボディランゲージを使い、コミュニケーションをとる術と勇気を得ることができた。この海外研修で得た貴重な経験を、これからの生活に自信をもって過ごすために生かしていきたい。



研修日誌（現地4日目）

「異文化の中で見つめ直した日本と自分」

この日から、TALKでの英語研修が始まった。朝8:15に寮のフロントに集合し、徒歩と市内を走る巡回バスを使って向かった（所要時間約30分）。バスに揺られながらサンフランシスコの街並みを眺めていると、整然と区画整理されており、急勾配の坂道が連なる様子は、ジェットコースターに乗っているようだった。車はトヨタなどの日本車が多く見られ、自動運転であるWaymoも自然に溶け込んでいた。日本では完全自動運転は実現されておらず、アメリカは日本の一歩先を進んでいることを目の当たりにした。

TALKでは英語習熟度別に、Low Intermediate, High Intermediate, Literacyクラスに振り分けられ、私はLiteracyクラスだった。この日はリーダーシップについて学んだ。授業は9:00~10:50が1限、11:20~13:10が2限と非常に長く、集中力が途絶えそうだった。魚津高生は真面目に授業が終わるまで着席していた一方、現地の学生には遅刻してきたり、途中で席を立って部屋から出て行ったり、リンゴを丸かじりしながら発言している人もいた。しかし、授業内容には積極的に参加しており、自分の意見を臆することなく発表していた点が印象的だった。ほとんどの留学生が大学生以上だったので、ビジネスを踏まえた話もあり、大人の世界に触れたような感覚を覚えた。

1限は、リーダーシップを深掘りするためにディスカッションしたが、私は一度も発言できなかった。なぜなら、何を話しているのか理解できなかったからだ。先生に振られた時も分かったふりをして笑顔で頷く自分が不甲斐なく、情けなかった。日本における英語の授業は非常に分かりやすく、リスニングも聞き取れていたため、ギャップに打ちのめされた。英語力向上のためには、やはり英語圏での実体験が欠かせないのだと痛感した。昼休憩には、ブラジル出身のFabio、アルジェリア出身のDihia、エクアドル出身のAlejandraと親しくなった。キットカットの抹茶味をプレゼントすると、大変喜んでくれた。連絡先を交換し、帰国後も近況報告をするほど、仲良くなった。

午後からはValues Card Workshopをした。これは、自分が大切にしている価値観を周りと共有し、自分を見つめ直すことを目的としている。グループ内で、日本の宗教について聞かれた時、上手く答えることができなかった。日本人であることに誇りを持っているとはいえ、日本についてまだまだ知らないことが多い現状に気付かされ、そんな状態で日本人として海外へ行くのは、どこか恥ずかしさを感じた。今後は英語の勉強に励み、日本の良さや文化についても深く学び、将来は日本の魅力を海外へ発信できる人物になりたいと考えている。

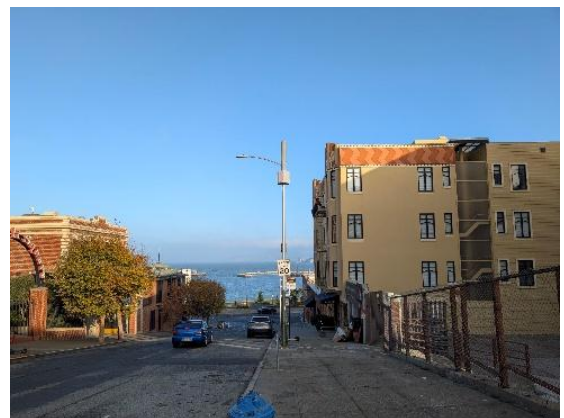
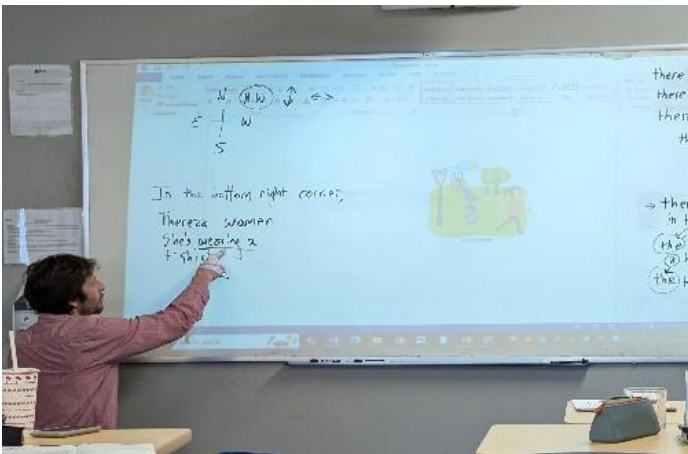


研修日誌（現地 5 日目）

海外研修 5 日目は主に Talk での英語研修と Emily Murase 氏による SDGs レクチャーであった。

午前中は今回の英語研修である Talk English school という語学学校での授業を行った。そこは寮からバスに乗って約 10 分、海岸近くに面したところだ。観光地であるフィッシャーマンズワーフに近く、とても和やかな空間に包まれている。私の通う High Intermediate class（中級クラス）では主に、現地で暮らす際に役立つネイティブ発音や前置詞などの細かいところを中心に、日本で学習済みの on, to などの前置詞の使い分けや日常会話の発音特徴を教えてもらった。魚津高校では詳しく教えてくれないことばかりなのでとても新鮮な気持ちで授業に参加できた。

この日に学んだことは、ネイティブでおなじみの“ganna”, “wanna” についての話や、t の発音のちがいがなどだ。“ganna”は“go to”、“wanna”は“want to”の略語として用いられる。文章で書くことはないが、日常会話などの時は、基本この単語たちを使うらしい。洋楽でよく聞くこの単語はどういう意味なのだろうとずっと疑問に思っていたので、このことであつたのかと知れてスッキリした。現地ではいちいちすべての単語を発音することは少なく、多くは略すことで滑らかに話せるようにしているらしい。また t の発音については、後に続くアルファベットによって多種多様に変化することを学んだ。規則性があるとは知らず、今まで読むのに苦労していたのでとても感動した。これをもっと早く知っていればいろいろな単語を読めるようになったらと悔しく思った



研修日誌（現地 5 日目）

この海外研修は、海外での体験を通して異文化に触れ、視野を広げるとともに、社会問題や最新技術について理解を深めることを目的として行われました。



研修 5 日目にはジャパントウンを訪れ、Emily Murase 氏から SDGs についての講義を受けました。講義では、SDGs の目標である「住み続けられるまちづくりを」と「ジェンダー平等を実現しよう」を中心に学びました。「住み続けられるまちづくりを」については、サンフランシスコと日本の歴史について学びました。特に、第二次世界大戦頃に日系人が強制的に収容所に入れられていたという話を聞き、驚きと同時にその残酷さを強く感じました。「ジェンダー平等を実現しよう」では、男性と女性の間にある差について学びました。例えば、子供が父親と母親と過ごす時間の差は日本のほうがアメリカよりも大きいことや、男女間の賃金格差について知りました。日本は先進国であるにもかかわらず、ジェンダー平等の面ではアメリカに追いついていない現状があるため、社会全体で前向きに考えていく必要があると感じました。

また、Meta 社が 2022 年にオープンした Meta Store を見学しました。最新のテクノロジーを実際に体験することで、技術が大きく進歩していることを実感しました。多くのゴーグルやスマートグラスが展示されており、近い将来これらの技術がさらに活用されていくと感じました。人々の生活がより豊かになり、社会全体の質を高めていくのではないかと思います。

今回の海外研修を通して、現在の日米友好関係につながった歴史的背景や、新しい技術を正しく活用することの大切さを学びました。この経験を今後の生活や学習に生かしていきたいです。特に、ジェンダー平等については自分には関係のないこととは考えずに身近な場面でも意識して行動することが大切だと感じました。これからはニュースを通して社会問題について関心を持ち、自分なりに考え続けていきたいです。



研修日誌(現地 6 日目)

TALK イングリッシュスクールでの英語研修がありました。1時間50分の授業を2回受けました。僕の配属されたクラスでは、プリントを使って、リスニングとリーディング、スピーキングを重点的に、基本的なことから発展的なことまで様々なことを学習しました。はじめに、隣の人と二人一組になり、お互いの国でのクリスマスの過ごし方について話し合いました。僕のペアは、韓国人の方でした。韓国では、クリスマスに家族でのんびりと夕食を食べるのが一般的だそうです。また、日本について紹介していると、6年前のワンオクロックのライブの写真を見せていただき、日本の音楽文化の海外に対する強い影響力を感じました。また、ペアの方が日本に3度訪れたことのある方だったので、日本人に対してどんなイメージを持っているか尋ねると、対応が丁寧できれい好きだと言ってもらったので、日本に対していいイメージを持っていただいていることがわかりました。授業は、プリントの問題を先生の当てた順番に一人ずつ答えていくような流れでした。他国の研修生と話す機会が多くあり、少し騒がしくなり、先生が途中で出て行ってしまうということなどもありましたが、初対面の人との関わり方、授業に対する取り組み方など改善していくべきだと感じる場面が多くあり、英語の勉強以外にももっと頑張る必要があると思うこともいくつかありました。他にも、他国の研修生と会話をする中で、前置詞の使い方が曖昧だったり、動詞だけを言ってしまう、命令形として受け取られることがあったりして、基本的なことでも見直そうと思うことがありました。2つの授業の間に、30分間昼食をとる時間があり、レストランでチップを払い、日本では経験できないような経験をすることができました。

海外研修を通して、様々な経験、体験をしたり、英会話の新しい表現方法、様々な海外の文化を学んだり、知らなかった日本のことについても知ることができました。



研修日誌（現地7日目）

私は、海外研修でアメリカのサンフランシスコに訪れました。最終日は研修の中でも特に思い出に残った一日です。午前中は四日間通った語学学校の最終日でした。最初は英語で話すことにとっても緊張していましたが、授業を重ねるうちに少しずつ慣れていき、簡単な会話なら自分から話せるようになりました。最終日には、簡単な卒業式のようなものを行いました。卒業式の後には、みんなで語学学校が出してくださったピザを食べました。アメリカのピザは日本のものよりも大きく、とてもおいしかったです。短い期間でしたが、語学学校での経験はとても貴重なものになりました。

午後からは観光でゴールデンゲートブリッジへ行きました。この日は天気がとても良く、空が青く澄んでいて、橋と海の景色がとてもきれいでした。写真で見たことはありましたが、実際に目の前で見ると想像以上に大きく、迫力がありました。友達と写真を撮ったり、景色を眺めたりして、とても楽しい時間を過ごしました。

夜は研修最後の夜ということで自由行動になり、Pier39に行きました。Pier39はアメリカの観光地という雰囲気でお店やレストランがたくさんあり、とても賑やかでした。家族や友達にお土産を買ったり、夜ご飯においしいステーキを食べたりしました。アメリカンサイズのステーキは大きすぎて食べきれなかったけど、とてもおいしかったです。Pier39ではたくさんのアシカが集まっている場所があり、とても数が多かったので驚きました。

今回の海外研修を通して、私はたくさんのことを学びました。一番大きかったのは、英語に対する考え方が変わったことです。日本にいと、英語はテストのための教科というイメージが強く、間違えないことを気にしてしまっていました。しかし、実際にアメリカで生活してみると、完璧な英語でなくても、自分の気持ちを伝えようとするのが大切だと感じました。単語だけでも相手に伝わることもあり、勇気を出して話すことで会話が成り立つという経験は、とても印象に残っています。また、語学学校で出会った先生やクラスメイトとの交流も、私にとって大切な思い出です。国籍や文化が違っても、表情やジェスチャー、簡単な英語を使えば気持ちは通じるのだと実感しました。

海外研修では、楽しい思い出がたくさんあるだけでなく、自分自身を成長させてくれる貴重な経験だったと思います。この研修で学んだことや感じたことを忘れず、これからは英語の学習にもより前向きに取り組みたいです。そして、将来また海外に行く機会があれば、今回よりも自信をもって行動できるようになりたいと思いました。



研修日誌（現地7日目）



私が参加した海外研修は、7日間という短い期間でしたが、私にとってとても心に残る体験になりました。最終日には、サンフランシスコにあるゴールデンゲートブリッジに行きました。テレビや写真で見たことはありましたが、実際に目の前で見るととても大きくて、赤い橋と青い空、海の景色が本当にきれいでした。風は少し強かったですが、その分空気が澄んでいて、「海外に来たのだな」と強く感じま

した。

研修中は、TALK という学校に通いました。TALK は5日間だけの学校でしたが、先生たちはとても面白くて生徒の人たちも優しく教えてくれました。最初は緊張してあまり話せませんでしたが、ジェスチャーや簡単な英語でも気持ちは伝わるのがわかり、少しずつ話すのが楽しくなりました。最後の日には、無事にTALKを卒業することができ、とても達成感がありました。



また、研修中に会った外国人の方が、たまたま富山に行ったことがあると話してくれて、とても驚きました。遠く離れた外国で、自分の住んでいる日本の地名が出てきたことに運命を感じ、世界は思っているよりもつながっているのだと思いました。

この研修を通して、もっと英語を勉強して、また外国に行きたいと思うようになりました。完璧に話せなくても、ノリと勢いがあればなんとかなることもわかりました。この経験を大切にして、これからも新しいことに挑戦していきたいです。

ALBUM











